

令和4年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

新型コロナによる制限が徐々に緩和される中で、従来の教育活動の意義や内容を見直し、再確認できた。設定した課題に対し共通理解を図り、生徒の実態に応じた効果的な取り組みにより、重点目標はほぼ達成できた。多様な生徒への対応についても教職員全体で情報共有し、SC・SSWや通級指導担当教員とも連携しながら、学校生活の様々な場面で支援することができた。

学習活動では、多くの授業でICTを活用し、わかる授業の実践に取り組んだ。互見授業では教科を越えて積極的に参観が行われ、授業改善に活かされた。生徒アンケートでは「授業に真面目に取り組んでいる」が91.7%と高い一方で、「疑問があるときは積極的に質問している」が30.2%と低く、教員側から働きかけるなど、質問しやすい雰囲気づくりに工夫が必要である。

学校生活では、様々な機会を捉え交通安全に対する指導を行った。「ながらスマホ」の危険性を啓発し、日頃の行動改善につなげた。また、生徒の成長段階に応じてSCや保健師による「心と体の健康講座」を年間11回実施した。自己理解やストレスマネジメント、性教育、飲酒と喫煙等、心身の健康や命の大切さについて、生徒が自ら考え、学ぶ機会を充実できた。

進路支援では、JSTや年次と連携したきめ細かな指導を継続し、卒業生の進路目標を達成した。年次を越えた進路ガイダンスや企業見学の規模拡大など、早期から計画的に進路意識の高揚を図った。インターンシップでは生徒の希望・適性を十分に把握し、実習先を確保できた。

特別活動では、アンケートを反映した行事の企画や多様な生徒へ配慮した運営を工夫することで充実度は93%と高かった。図書委員の活動では、生徒参加型の企画で新規利用者を増やすとともに、「読書感想文」や「一人一冊運動」を呼びかけ、貸出冊数を伸ばすことができた。

総合福祉科では、専門技術者による様々な講座を実施し、福祉への理解を深めた。介護実習では、コロナ禍による日程変更が何度もあったが、無事に全日程を修了できた。実習により生徒の介護・福祉に対する意識を高めることができ、介護技術の定着にもつながった。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) ICTを活用した授業実践や校内研修を通して、より効果的な活用を探る。また、個に応じた学習支援が必要な生徒が増えており、未履修を減らす対策として早期から個別指導を行う。
- (2) 命の大切やSNSについて学ぶ機会を設定し、生徒会とも協力して粘り強く指導を継続する。また、生徒の抱える問題についてはSCやSSWとも連携し、早期発見・対応に努める。
- (3) 就職希望者への支援は早い時期からJSTと連携し、学校全体で行う。特別な支援が必要な生徒については支援体制を強化し、必要に応じて情報交換を行うなど進路先との連携を深める。
- (4) 生徒主体の特別活動を企画し支援する。集団活動が苦手な生徒には年次と連携し、配慮ある働きかけをする。図書館は生徒目線の企画を工夫し、生徒が発信する活動を展開していく。
- (5) 介護の原則や技術の根拠を明確にして練習を重ねるなど、介護実習がより有意義な体験となるよう事前指導を充実させる。また、外部専門講師の効果的な活用を継続する。

8 学校アクションプラン

令和4年度 となみ野高等学校アクションプラン -1-				
重点項目	学習活動			
重点課題	① 学習内容の理解・定着	② 学習意欲の向上		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業についての理解力が低く、学習内容が定着しにくい生徒が見られる。 ・ 学習・授業に対する意欲の低い生徒が見られる。 			
達成目標	① 単位修得率 90%以上	② 学習・授業についてのアンケートで「先生の説明はわかりやすい」と回答した生徒の割合 90%以上		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業における生徒とのコミュニケーションを深め、質問しやすい関係づくりを目指す。 ・ 適切な課題を設定し、確実に提出させることで学習内容の定着を図る。 ・ 生徒によっては、通信制講座の活用など、多様な学習機会を確保できるようにする。 ・ タブレットの効果的な活用等、授業改善に取り組み、よりわかる授業を目指す。 ・ 互見授業等を通して教員相互の意見交換を密にし、授業改善を図る。 ・ 観点別評価の導入により、指導と評価の一体化を図り、生徒が主体的に授業に臨めるようにする。 			
達成度	① 79.4%(前期)	② 84.2%		
具体的な取組状況	<p><授業改善・教員研修等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの授業で、タブレットを始めICTを活用し、よりわかる授業に取り組んだ。 ・ 互見授業を行い、互いに積極的に授業を参観して、授業改善に努めた。 <p><生徒への働きかけ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 面接週間や年次集会等で、授業に取り組む姿勢の大切さに対して意識付けを図った。 ・ 長期休業期間には各教科より課題を設定し、学習の継続を図った。 ・ 進路指導部、教科、年次と連携し基礎学力コンテストを行い学力の定着を図った。 ・ 次年度科目登録を通じて、進路の見通しを持たせるようにし、学習への意欲喚起を図った。 ・ 欠課が多い生徒には、保護者と連携し早めに注意喚起を図り未履修の予防を図った。 <p><学習・授業についてのアンケートより抜粋></p> <p>「授業に真面目に取り組んでいる」 91.7%</p> <p>「疑問があるときは積極的に質問している」 30.2%</p>			
評 価	B	目標達成にやや及ばなかった	B	目標達成にやや及ばなかった
学校評議員の意見	<p>積極的なICT活用や互見授業による授業改善への取り組みは評価できる。今後もこの取り組みを継続し、わかりやすい授業につなげる活用法を検討して欲しい。また、「個別最適な学び」を整備し、早期から未履修を減らす対策を講じるとともに、質問しやすい関係づくりを大切にしたい。</p>			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な生徒の増加に伴い、個に応じてよりきめ細かく学習の支援を行う必要がある。 ・ 教員側から働きかけるなど、気軽に質問できるような環境をさらに整えていきたい。 ・ 欠課が規定を超え未履修になるケースが目立つ。今後とも早期に粘り強く個別指導を行い、未履修になるケースが減少するようにしたい。 			

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)

重点項目	学校生活			
重点課題	① 安全意識の高揚	② 基本的な生活リズムを考えさせることで、健康な心身を育て、学校生活の質を向上させる		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時や休み時間にスマホを操作しながら移動する「ながらスマホ」の生徒が多く見られる。周囲の状況把握が遅れ、事故の被害者にも加害者にもなり得る危険な行為である。生徒自身が「ながらスマホ」の危険性を十分に理解し、安全意識を高める必要がある。 生活リズムの乱れから、倦怠感等の体調不良を訴える生徒や遅刻や欠席をくりかえす生徒が見られる。体の不調が心の健康に影響を及ぼすケースもあり、生徒自身が心と体の健康やつながりについて考え、心身の健康保持増進に有効な習慣を身につける必要がある。 			
達成目標	① 生徒の自己評価による「ながらスマホの危険性を理解し、普段の行動に改善が見られた」と回答する割合 70%以上	② 生徒向け研修会「心と体の健康講座」実施回数 年10回以上		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒対象に交通安全教室を実施し、「ながらスマホ」の危険性について理解を深めるとともに、命の大切さと交通ルール遵守への意識を高める。 スマホに関するアンケート調査を実施し、生徒の実態を把握する。 ポスター掲示や動画、YouTube等を活用し、スマホの使用マナーについて注意喚起を行う。 事故を未然に防ぐため、全校集会や年次集会等の様々な機会を通して普段の行動を振り返る場面を設け、安全意識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 心と体の健康や、つながりについての理解を深め、コロナ禍におけるストレスマネジメントの必要性や、命の大切さなどについて生徒が自ら考え・学ぶ機会として、生徒向け講座を企画・実施する。 各年次の生徒の実態に即した講座を実施するため、年次担当者と連携し、生徒の実態把握に努め、講座内容・時期を検討する。 生徒が、心の専門家による講座を通して、コミュニケーションや命の大切さについて学ぶ機会を得られるようにする。 スクールカウンセラーを講師に起用することによって、生徒が相談室でのカウンセリングを利用しやすい環境を作る。 		
達成度	① 75%	② 11回実施 ※予定を含む(令和5年1月現在)		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒対象に交通安全教室を実施し「ながらスマホ」の危険性について理解を深め、命の大切さとともに交通安全に対して啓発を行った。 自治委員会で「ながらスマホ」のポスターを作成し、校内に掲示したり、クラスで呼びかけを行った。 前期6回・後期4回、登校時間帯に校門付近で交通安全指導を実施した。 全校集会等で事故を未然に防ぐための普段の行動を見直すよう注意喚起を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 各年次生徒の成長段階に応じ、以下の内容で「心と体の健康講座」を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ◆スクールカウンセラーによる講座（人間関係作り、自己理解、ストレスマネジメント等）－7回 ◆保健師によるヤングヘルスセミナー（性教育、飲酒・喫煙と健康）－2回 ◆デートDV予防啓発講座、救急講習会－2回 講座実施後、講座内容についてまとめた掲示物を作成したり、講座に関する資料を専用ファイルに保存させたりするなど、生徒の振り返りや学びの系統化を支援した。 		
評 価	A	目標を達成した。	A	目標を達成した。
学校評議員の意見	<p>「ながらスマホ」の危険性の啓発は良かった。今後は交通安全指導に加え、命の大切さやSNSの使用について様々な機会を通して指導して欲しい。</p>		<p>生徒の実態に応じた各種講座やSCの効果的な活用は評価できる。生徒が抱える様々な問題を学ぶ機会と合わせて、今後は生徒がSOSを発しやすいう環境の整備もお願いしたい。</p>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> デジタル社会を生きていく子供たちを被害者、加害者にならないためにもインターネット、スマートフォン等を「賢く活用する知識・知恵」「ルールを守って使える健全な心」「安全に利用するための危機管理意識」を学ぶ機会の設定に努める。 生徒会や自治委員会と協力し、学校生活をより安全に過ごすため、生徒からの呼びかけや注意喚起を行う活動を増やしていきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> 子どもを取り巻く環境が複雑化するにつれ、ストレスや悩みを抱える生徒の増加が見込まれる。そういった生徒に対する心のケアや、ストレスマネジメント、命の大切さなどについて学ぶ機会が十分に与えられる環境作りに努める。 自殺抑止の観点からも、学校生活における生徒の些細な変化を見逃すことなく、生徒が抱える様々な問題（ヤングケアラー、虐待、発達障害など）の早期発見・対応のための体制の充実に努める。 	

重点項目	進路支援			
重点課題	適切な進路目標を設定し、進路実現を目指す。			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路に対する意識が希薄で、明確な目標を持っていない生徒が見られる。 ・ 進路実現に必要な基礎学力および一般常識、マナーが不足している生徒が見られる。 ・ 進路決定に向けて特別な支援を必要とする生徒が見られる。 			
達成目標	① 卒業予定者の進路目標達成率 100%		② 1月の進路希望調査で、進学・就職を明確にできる生徒の割合 1年次75%以上 2年次90%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路特別講座（進路ガイダンス、社会人講話、企業見学会、先輩講話）およびインターンシップを事前・事後指導を併せてきめ細かく行う。また、進路ノートの活用を各年次に周知徹底し、段階的に情報を蓄積することにより、目標とする進路を明確にする。 ・ 卒業予定者に対して、就職支援教員（JST）や校務運営委員とも連携し、進学・就職試験に向けた面接指導・小論文指導を個別に実施し、社会人として求められる基本的なマナー、コミュニケーション能力および自己表現力を身に付けるよう指導する。 ・ 基礎学力コンテストやキャリアアッププロジェクトの実施を通じて、進路実現に必要な学力の育成を図る。さらに、進路決定者においても進学・就業意欲を継続させ、進路先への円滑な移行を目指す取り組みを行う。 ・ 特別な支援が必要な生徒には、年次をはじめ通級指導教員や保健厚生部と連携し、適性に十分配慮したアドバイスを行う。 			
達成度	① 卒業予定者の進路目標達成率 100% 【就職15名】 【進学12名】（2名結果待ち）		② 進学・就職を明確にできる生徒の割合 【1年次】 77% 【2年次】 95% (2/10現在)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3・4年次対象の進路ガイダンス（6月）への2年次希望生徒の参加、1・2年次対象の進路ガイダンス（1月）への来年度の4年次生の参加など、柔軟な対応を行った。 ・ 先輩講話の中止もあり、企業見学会はより規模を拡大した形での実施を行った。R2年度の2社（R3は中止）に対し、7社に延べ25名の生徒が参加した。 ・ インターンシップの実施においては、生徒の希望を調査した上で実習先を選定するなど、生徒にとってより充実した体験となるよう配慮した。 ・ 3年次の就職希望生徒、および2年次の卒業予定生徒全員がJST面談を行った。また、就職試験対策においては校務運営委員を加えての面接練習を実施した。 			
評 価	A	目標を達成した。	A	目標を達成した。
学校評議員の意見	計画的な進路意識の喚起や生徒の志望や適性に応じたきめ細かい個別指導は評価できる。特別な支援が必要な生徒には早期から支援体制を構築しミスマッチを防いで欲しい。			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職希望者への支援は、早い時期から年次職員を中心としながら、JSTや校務運営委員と連携して、学校全体で行う必要がある。また内定後についても、就業への意欲を継続できるような指導が必要である。 ・ 次年度以降、就職希望者の増加が見込まれるため、会社選びや就職試験対策などより充実した取り組みが求められる。 ・ 特別な支援が必要な生徒への本校での対応等について、企業や上級学校との十分な情報交換など、連携を深める必要がある。 			

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)

重点項目	特別活動	
重点課題	① 学校行事への積極的な参加	② 図書館の有効な活用
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 人とのコミュニケーションや集団活動そのものに苦手意識を持つ生徒がおり、学校行事に消極的な生徒や、参加できない生徒が見られる。また、昨年度よりも生徒数が大幅に増加しており、一人一人への配慮がより必要となっている。 インターネットやスマホの普及により、読書率が減少している。読書を習慣化させることや読書の質を向上させるための支援が必要となる。 	
達成目標	① 学校行事(チャレンジデーⅠ、Ⅱ、Ⅲ、となみキャンパスフェスティバル)充実度 90%以上	② 1年間の貸し出し冊数 一人1冊以上 全校生徒の60%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 校訓「発見、挑戦、創造」に基づき、学校行事へ積極的に参加する意欲の向上を図る。生徒会を主体とした行事の企画・運営を行う。 生徒自身の学校行事における役割の自覚を促し、一人一人が達成感を持てるような配慮や働きかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒のニーズに応じた図書を準備する。 図書委員によるイベントを企画するなど、来館者を増やすための取り組みを行う。 図書の展示方法を工夫し、読書への興味・関心を高める。
達成度	① 93%(チャレンジデーⅠ、Ⅱ、Ⅲ、となみキャンパスフェスティバルの平均)	② 一人1冊以上 生徒の50%(長欠者を除く) 一人当たりの貸出冊数1.69冊
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部が事前にアンケートを実施し、生徒の意見を行事に反映するよう努めた。また、生徒会執行部主体で行事の企画が行われ、活気のあるチャレンジデー、キャンパスフェスティバルとなった。 各行事において、生徒各自の役割を自覚させることで、人間関係作りや責任感を育むことができ、充実感を得ることができた。各行事のアンケート回収率が回数を経る毎に低下してしまっただ。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の年間貸出冊数は341冊と、昨年度と同程度であった。(R2:375、R3:333)その内、生徒の利用者数は51名、貸出し冊数174冊だった。 図書委員の活動では、本のポップや掲示物づくり、「図書館ニュース」の編集作業などを行っている。今年度は、月刊誌購入の見直しを行い、生徒の意見を取り入れ変更した。また、キャンパスフェスティバルでは、生徒参加型の「本の森」という企画を行ったり、図書委員の活動について発表したりした。これによって、今まで足を運んでいなかった生徒を呼び込むことができた。夏休み前には「読書感想文」、冬休み前には「一人一冊運動」を呼びかけ、貸出冊数を伸ばすことができた。
評 価	B	目標は達成したが、改善すべき点あり。
学校評議員の意見	多様な生徒へ配慮しながらの企画・運営は大変だが、役割を自覚させ責任感等を育成して欲しい。集団活動が苦手な生徒には成功体験が積めるよう働きかけて欲しい。	B
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 少人数の学校だが生徒数が増加傾向にあるため、学校行事の在り方について見直しと工夫をしながら企画・運営を行う。 集団活動への苦手意識や経験不足を感じる生徒が多いため、様々な行事に向けて年次や教職員とより一層の連携を図り、多様な生徒に配慮しながら企画・運営をしていきたい。 各行事のアンケートの回答・回収率を上げるべく改善していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 購入図書選定、館内のディスプレイ、各種イベントでは、今後も生徒目線の企画をし、生徒から生徒へ発信する形で活動できるよう指導していきたい。 広報の仕方を工夫し、イベントや図書委員の取り組みについて全校生徒への認知度をもっと高める必要がある。 今後も「一人一冊運動」を継続し、夏休みと冬休みには重点的に読書を啓発するための取り組み行いたい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:達成できなかった)

重点項目	その他：総合福祉科学習指導	
重点課題	専門科目への意欲的な学習	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域で活躍する介護人材の育成」を指導目標として、日々の授業の中で介護のあり方を考えたり、知識・技術を定着させることに努力を要している。 	
達成目標	生徒の自己評価による介護技術の定着度・満足度 90%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒に介護技術評価項目をわかりやすく示し、目標を明確化できるようにする。 ・ 生徒同士の相互評価を活かして、介護技術を高めさせる。 ・ 授業のユニバーサル化を進める。 ・ 個別の配慮を要する生徒に対する指導や評価、実技試験の実施方法について工夫する。 ・ 介護技術発表会を実施し、今後の技術向上や意欲向上に役立てる。 	
達 成 度	87.1%（1年次 94.0% 2年次87.0% 3年次80.3%）	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初に介護技術の各手順と根拠をしっかり説明した後、実習に入ることを心がけた。 ・ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開を試みた。特に、授業の目標→内容→展開の明示、及び、わかりやすいビジュアルなワークシートの作成に留意した。 ・ 介護技術の繰り返し練習を行った。自己評価及び生徒同士の評価を行うことで自分の技術を振り返る機会を設けた。 ・ 介護実習イ（2年次）、介護実習ロ（3年次選択者）を実施した結果、実際に高齢者施設で介護現場を体験することで、生徒の介護・福祉に対する意欲関心が高まった。 	
評 価	B	ほぼ達成した
学校評議員 の意見	<p>介護実習は大変有意義な体験である。様々な福祉施設での体験活動や専門家からの講話を通して福祉人材を育成して欲しい。また、介護技術の目標を明確にし、反復練習を継続して欲しい。</p>	
次年度へ向 けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年次が上がるにつれて介護実技の内容が難しくなるので、実技問題の読み込みと応用力を高めることが課題である。 ・ 教員の評価と生徒の自己評価の点数平均に差があり、生徒の自己評価の方が約10点高いことが分かった。実技テスト終了後、介護技術が正しく定着するよう指導していくことが課題である。 ・ 介護の原則や介護技術の根拠を明確に説明し、技術に生かせるよう指導する。 ・ 支援を要する生徒に対するわかりやすい指導方法についての研修を深める。 ・ 生徒の意欲を向上させる声かけや対応、評価について共通理解を図る。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)